

専門分野 基礎看護学	科目名:看護学概論	★専任教員(看護師)	1 単位 30 時間 (1 年次前期)	
学習目標	1. 看護の本質を理解し、看護の概念を理解する。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として学ぶ。 3. 人間にとっての健康の意義について理解する。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のありかたを理解する。 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1	1. 看護とは	片寄	1) 看護の本質	講義
2			2) 看護の役割と機能	講義
3			3) 看護理論家の看護概念	講義
4	2. 看護の対象の理解		1) 人間のこころとからだ 2) 生涯発達し続ける存在としての人間	講義
5	3. 国民の健康状態と生活		1) 健康とは	講義
6			2) 国民の健康状態 3) 国民のライフサイクル	講義
7	4. 看護の提供者		1) 職業としての看護	講義
8			2) 看護職の資格・養成制度・就業状況	講義
9			3) 継続教育とキャリア開発 4) 看護職の養成制度の課題	講義
10	5. 看護における倫理		1) 職業倫理と看護倫理 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3) 倫理的ジレンマ	講義
11	6. 看護提供のしくみ		1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 3) 継続看護 4) 看護をめぐる制度と施策	院内見学 または他職種からの講義
12			グループワーク	
13			5) 看護サービスの管理 6) 医療安全と医療の質保証	講義
14	7. 広がる看護の活動領域		1) 国際化と看護 2) 災害時における看護	講義
15	終講試験		筆記試験、まとめ	
履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは「看護学概論」 他は必要時指示			
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(1)看護学概論 医学書院 2) F. ナイチンゲール著:看護覚え書き, 現代社 2) 日本看護協会監修:看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理, 2) ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会			
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	看護の理論家の書物を読む、課題レポートに取り組む	

専門分野 基礎看護学	科目名:看護倫理	★専任教員(看護師)	1 単位 15 時間 (3 年次前期)	
学習目標	1. 看護師としての職業倫理を理解する。 2. より良い看護の実現に向けた倫理的問題の分析および倫理的意思決定の方法を理解する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1	1. 看護倫理と 職業倫理	片寄	1) 患者の権利擁護 2) 患者のプライバシー保護 3) 看護師の倫理規定 (1) 看護師の責務 (2) 看護実践に関わる倫理の原則	講義 講義
2			4) 職業倫理 看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史の理解	講義
3			5) 生命倫理 (1) 生命倫理の理論 (2) 生徒生殖の生命倫理 (3) 死の生命倫理 (4) 先端医療と制度をめぐる生命倫理	講義 GW
4			6) 道徳的ジレンマと倫理的課題 (1) 日常のケア場面における倫理的課題 (2) 先端技術医療における倫理的課題	講義
5	2. 看護師としての自 覚と責任のある行動		1) 生命・尊厳権利の尊重と擁護 2) 守秘義務の厳守と個人情報保護 3) 事故の責任と能力の的確な把握 4) 看護師としての健康と品行を維持 5) 環境問題における社会と責任の共有 6) ニーズの把握 7) 受容的・共感的態度 8) 説明と同意 9) 信頼関係を築く行動	講義 GW
6 7	3. 意志決定の プロセス		1) 倫理問題へのアプローチ (1) 倫理的問題を議論する基本的ルール (2) 倫理的問題のアプローチ法	講義 GW
8	終講試験		筆記試験	
履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは「看護倫理」 他は必要時指示 2. 配付資料は全て持参 ＜演習＞倫理的判断を求められる事例を用いて演習する。			
1) テキスト 2) 参考書	2) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(1)看護学概論 医学書院 2) 看護師の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理(日本看護協会出版会)			
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート 3. グループ発表			
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	倫理課題についてレポートに取り組む	

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学	科目名:日常生活の援助技術 I【環境】		★専任教員(看護師)	1 単位 30 時間 (1 年次前期)	
学習目標	1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する。				
回数	主題	講師名	主な習内容	講義形態	
1	環境とは 人々の生活環境	平出	1) 人間の健康と環境 生活環境の調整:家庭の暮らし	講義	
2			生活環境の調整:地域の暮らし	講義	
3	1. 療養生活の環境		2) 生活環境の調整 (温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、 色彩、プライバシー)	講義 演習 見学等	
4					
5					
6	2. 病室環境		1) 病室の構成	講義	
7			2) 病院で働く人々	講義	
8			3) 療養環境のアセスメント	講義	
9			① 病棟の環境 (病棟の構造、病室の構成、病室の環境測定)	病棟見学	
10	3. 療養環境の整備		1) ベッド周囲の環境整備	講義演習	
11			2) ベッドメイキング	講義演習	
12			3) 臥床患者のリネン交換	講義演習	
13			事例に応じた援助	演習	
14	技術確認			環境整備などにかかわる技術チェック	演習
15	終講試験			筆記試験/まとめ	
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の能動的な学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 				
1)テキスト 2)参考書	1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II 医学書院 1) ナイチンゲール著:看護覚え書き、現代社 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
評価方法	1. 筆記試験				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	授業の学習課題に取り組む。看護技術習得に向けて技術練習を行う。 日々の日常生活・暮らしを送る生活者の一人として、自身を取り巻くあらゆる生活環境とその影響を考え、授業の予習・復習を行う		

専門分野 基礎看護学	科目名:日常生活の援助技術Ⅱ【食事・排泄】		★専任教員(看護師)	1単位 30時間 (1年次前期)
学習目標	1. 栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する。 2. 排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	授業形態
1	1. 人間の健康と 食事	柳森	1) 食事の身体的・心理的・社会的意義 2) 健康な食生活	講義
2			3) 栄養状態のアセスメント 4) 摂食能力および食欲、食に関する認識のアセスメント	講義
3	2. 医療施設で 提供される食事		1) 食事の種類と形態 2) 食事の提供方法	講義
4	3. 食事の援助		1) 経口的栄養摂取の援助 (1) 食事の介助	講義
5			(2) 嚥下訓練	講義 演習
6			2) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 胃管	演習
7	4. 人間の健康と 排泄		1) 排泄の身体的・心理的・社会的意義 羞恥心とプライバシー 2) 排泄行動のアセスメント 3) 排泄物の観察 アセスメント	講義
8				
9	5. 対象の状態に 応じた排泄の援助		1) 自然な排泄を促す援助 (腹部のマッサージ、排便コントロール) (1) 便器・尿器を用いた排泄の介助 (2) ストマ管理	講義 演習
10				
11			2) 対象の状態に応じた援助	演習
12			3) 排泄を促す医療処置を伴う援助 (1) 一時的導尿・持続的導尿 (2) 留置カテーテルの管理 (3) 浣腸	講義
13				演習
14				
15	終講試験			筆記試験/まとめ
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト・参考図書を活用して、予習をして授業に臨むこと。 ・グループワークでは、他者の意見を積極的に聞き、自己の意見を述べること。 ・計画的に技術練習をして、食事や排泄の援助技術に臨むこと。 ・学習内容に沿ってレポート課題を提示する。 			
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学〔3〕基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 医学書院			
評価方法	1. 筆記試験70% 2. レポート30%			
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	課題学習に取り組むこと DVD等の動画を活用し、授業の事前・事後課題に取り組むこと	

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学	科目名:日常生活の援助技術Ⅲ 【姿勢と体位】【睡眠・休息】	★専任教員(看護師)	1 単位 30 時間 (1 年次前期)	
学習目標	1. さまざまな移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する。 2. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1 2	1. 人間の活動	佐藤	1) 活動とは 2) よい姿勢とボディメカニクス 3) 活動・運動の能力のアセスメント	講義
3 4	2. 姿勢と体位		1) 体位・体位変換、安楽な体位の調整(ポジショニング) ①体位変換 ②車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送 ③歩行・移動介助	講義
5 6 7 8 9	3. 移動・移乗動作の援助		1) 歩行介助 2) 車椅子、輸送車への移乗動作介助・移送 3) 運動機能維持・拡大に向けた援助(自動・他動運動の援助、ROM)	講義 演習
10 11	4. 睡眠・休息の援助		1) 休息の種類と意義 2) 睡眠・休息状態のアセスメント 3) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法 4) 睡眠障害とその援助方法 5) 安静の弊害	講義 演習
12 13 14	5. 安楽確保の技術		1) リラクゼーション ①安楽な体位の調整 ②安楽の促進のためのケア 2) 巻法	講義 演習
15	終講試験		筆記試験/まとめ	
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために、適宜グループワークを取り入れる。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 			
1)テキスト 2)参考書	1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
評価方法	1. 筆記試験			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	課題学習に取り組むこと 演習授業の事前・事後課題に取り組み主体的に技術練習を行うこと	

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学	科目名:日常生活の援助技術Ⅳ 【清潔・衣生活】		★専任教員(看護師)	1単位 30 時間 (1 年次前期)	
学習目標	1. 療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する。 2. 身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔保持の技術を習得する。				
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態	
1	1. 療養生活における衣服の機能	名達	1)衣服を身につける意義	講義	
2			2)病衣の種類と選び方	講義	
3	2. 対象の状態に適した寝衣交換		1)和式寝衣の交換 2)プルオーバー式の寝衣の交換	演習	
4	3. 人間の健康と清潔	名達	1)清潔の意義 2)身体各部の清潔の援助方法 (1)清潔援助のアセスメント (2)援助の必要性の判断 (3)援助方法の選択	講義	
5			3)口腔ケア(歯磨き)4)手浴・足浴	演習	
6				5)洗髪	講義 演習
7			6)清拭		演習
8				7)陰部洗浄	演習
9					演習
10			技術チェック	名達	清潔に関する技術のチェック
11	筆記試験/まとめ	試験			
12	終講試験				
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。技術は自主練習を行うこと。 提示される DVD 等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 				
1)テキスト 2)参考書	1)系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2)根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
評価方法	1.筆記試験				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	課題学習に取り組むこと 技術習得に向け、主体的に技術練習を行うこと		

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学		科目名:ヘルスアセスメント		★専任教員(看護師)	1単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標		1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する。 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション(身体診査)の基本技法を系統的に習得する。 3. 心理・社会的側面について、必要な理論やツールを用いたアセスメントの視点を理解する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態	
1	1. 看護におけるヘルスアセスメント	柳森	1)ヘルスアセスメントの考え方	講義	
2			2)アセスメントプロセス (ゴードン)	講義	
3	2. 問診・インタビュー、ヘルスヒストリー(健康歴)		1)問診・インタビュー	講義	
4			2)ヘルスヒストリー(健康歴)	講義	
5	3. フィジカルアセスメント		1)フィジカルアセスメントの基本技術	講義	
6			2)身体各部の測定 (モニタリング・フィジカルイグザミネーション) バイタルサインの実際	講義	
7				演習	
8				演習	
9			演習		
10	4. 系統別アセスメント		1)系統的フィジカルアセスメントの実際 (1)呼吸器系 (2)心臓・循環器系	演習	
11			(3)腹部・消化器系 (4)筋・骨格系	演習	
12			(5)神経系 (6)頭部、頸部、視聴覚系	演習	
13	5. 心理・社会的側面からのアセスメント		1)心理・社会的側面からのアセスメント 身体的・精神的・社会的痛みについて	講義	
14	技術確認		技術チェック	試験	
15	終講試験			筆記試験/まとめ	試験
履修上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すため適宜グループワークを取り入れる。 提示される DVD 等の動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する 学習内容にそってレポート課題を提示する 			
1)テキスト 2)参考書		1) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2) フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院			
評価方法		1. 筆記試験70% 2. レポート30%			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	課題学習に取り組むこと、校内演習前後の身体各部の測定に取り組むこと。DVD 等の動画を活用し授業の事前・事後課題に取り組むこと		

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学	科目名:看護の展開方法	★専任教員(看護師)	1単位 30 時間 (1 年次後期)	
学習目標	1. 対象の持つ健康上の問題を明らかにし、その問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1	1. 看護過程の基盤となる考え方	柳森	1)クリティカルシンキング 2)リフレクション(内省・省察・熟考) 3)臨床判断モデル	講義演習
2	2. 看護モデルとアセスメント分析		1)看護モデルとアセスメント分析	講義演習
3			2)系統的情報収集 (1)観察含む (2)情報の種類(O データ、S データ)	講義演習
4			3)データ収集法	講義演習
5	3. 看護過程		1)アセスメント (1)情報の分類・整理 (2)情報の分析方法 (原因・現状・成り行き)の推測・判断 (3)総合 (4)全体像の把握	講義演習
6			講義演習	
7			講義演習	
8			2)看護問題の明確化(看護診断、共同問題) (1)看護診断の定義 (2)優先順位の決定	講義演習
9			3)看護目標と看護計画 (1)期待される成果の明確化・看護目標	講義演習
10			(2)看護計画の立案	講義演習
11			4)看護の実践 (実施)	講義演習
12	5)評価・修正 (1)評価の方法		講義演習	
13	(2)対象の日々の健康状態の変化に合わせた計画の修正 (3)期待される成果や患者の反応に合わせた計画の修正		講義演習	
14	リフレクション		振り返り	講義演習
15	終講試験		筆記試験/まとめ	講義演習
履修上の留意点	1. すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 学習内容にそってレポート課題を提示する。 〈演習〉・シミュレーション学習等を通じてアセスメント・看護診断・計画・実施・評価の段階における関連性と連続性を理解させる。			
1)テキスト 2)参考書	1)系統看護学講座 専門2 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院 1)看護が見える vol.4 看護過程の展開 メディックメディア *その他、授業のなかで随時紹介する			
評価方法	1. 筆記試験70% 2. レポート30%			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	課題学習に取り組むこと DVD 等の動画を活用し、授業の事前・事後学習に取り組むこと	

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学	科目名: 診療に伴う技術 I		★専任教員(看護師)	1単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 診察と検査の意義、目的を理解し、診察・検査・処置をうける対象への看護技術を習得する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1	1. 診療の補助技術と 看護師の役割 2. 診察時の看護	村田	1) 診察・検査・処置の目的 2) 診療における看護師の役割と倫理	講義
2	3. 検査時の看護		1) 検体検査(尿・血液・痰検査)	講義演習
3			2) 生体検査(心電図・X 線検査・CT・MRI・核医学検査・ 内視鏡)	講義演習
4			3) 生体検査(超音波・肺機能検査・心電図・経皮的動脈 血酸素飽和度)	講義演習
5	4. 穿刺・洗浄時の看護		1) 穿刺時の看護 2) 洗浄時の看護	講義演習
6 7	採血時の看護		1) 検体採取(採血)	講義演習
8	5. 救急法と看護		1) 救命救急技術	講義演習
9	6. 創傷管理	村田	1) 創傷の治癒過程と影響因子 2) 創の種類 3) ドレッシング材の種類と特徴 4) 包帯法	講義演習
10	7. 酸素療法時の看護		1) 酸素吸入療法の目的と種類 2) 使用器具の種類と特徴・取り扱い、援助方法	講義演習
11 12	8. 吸引時の看護		1) 排痰のケア・吸入 2) 吸引	講義演習
13	9. ME 機器の原理と看護の役割		1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 2) 心電図 3) パルスオキシメーター 4) 人工呼吸器 など	講義 演習
14	技術確認		村田	診療の補助技術(採血)の技術チェック
15	終講試験		筆記試験/まとめ	試験
履修上の留意点	1.常にテキストは、基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 2.配布資料はすべて持参 3.学習形態はその都度指示 4.侵襲のある演習を行う場合、教員の見守りが必要である。			
1)テキスト 2)参考書	1)系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2)根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
評価方法	1.筆記試験			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う 技術の習得にむけて積極的に技術練習を行う	

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学	科目名:診療に伴う技術Ⅱ	★専任教員(看護師)	1単位 30 時間 (1 年時後期)		
学習目標	1. 薬物を取り扱う際のチームにおける看護師の責任と役割を理解する。 2. 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象への看護技術を習得する。				
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態	
1	1. 薬物療法時の 看護師の役割	長島	1)正しい与薬 (1)与薬の基礎知識 2)薬の管理 (毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む)	講義 演習	
2	2. 与薬の技術 (経口)		1)経口与薬・口腔内与薬	講義 DVD	
4 5	(外用薬)		2)吸入 超音波ネブライザー 姿勢の保持、口腔内の洗浄 3)点眼 4)点鼻 5)点耳 6)経皮的与薬 7)直腸内与薬	講義 DVD	
6	(注射)		8)皮内注射・皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射 9)点滴静脈内注射	講義 DVD	
7			10)注射準備(薬液吸い上げ)	演習	
8 9			11)①皮下注射の実際	演習	
10 11			②筋肉内注射の実際	演習	
12 13			③点滴静脈内注射(ワンショット)の実際	演習	
14			(輸血管理)	1)援助の基礎知識 2)主な輸血製剤 3)輸血による副作用 4)実施前の評価 5)実施方法と観察	講義 DVD 演習
15			終講試験	筆記試験/まとめ	試験
履修上の注意	1.テキストは必ず持参。配布資料はすべて持参。学習形態はその都度指示する。 2.侵襲のある技術を行う場合、教員の見守りが必要である。				
1)テキスト 2)参考書	1)系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[3]基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2)根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				
評価方法	筆記試験				
自己学習時間	15 時間		事前・事後学習	技術の理解・習得に向けた事前学習・事後学習を行う	

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学	科目名:看護研究	★専任教員(看護師)	1 単位 15 時間 (2年次後期)	
学習目標	1. 看護研究の意義と必要性を理解する 2. 研究方法の基礎を理解する			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1	研究とは	片寄	1. 研究の意義と必要性 1) 研究の意義・必要性・重要性 2) 研究の条件 3) 看護理論と看護研究 4) 看護研究における倫理的配慮	講義
2	研究の種類と方法		2. 研究の種類と研究の方法 1) 研究の種類と方法 2) 研究過程	講義
3	研究計画書とは		3. 研究計画書の必要性と書き方 1) 研究の始め方:リサーチクエスション 2) 研究計画書の書き方	講義 グループ ワーク
4	研究論文とは		4. 研究論文の種類と構成 5. 抄録の作成と発表方法	講義
5	文献の活用		6. 文献の活用 1) 文献の検索方法 2) 文献の読み方整理の仕方 7. 文献のクリティーク	講義
6	研究計画書の実際		8. 研究計画書の実際	グループ ワーク
7	発表会		9. 研究計画書発表会	発表会
履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは「看護研究」 他は必要時指示			
1)テキスト 2)参考書	1) 系統看護学講座 別冊 看護研究 医学書院 1) わかりやすいケーススタディの進め方 照林社			
評価方法	1. 筆記試験 2. 提出物			
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	研究論文を読む。研究課題に取り組む	

★実務経験のある教員

専門分野 基礎看護学	科目名:看護研究演習		★専任教員(看護師)	1 単位 15 時間 (3年次前期)
学習目標	1. 研究のクリティークの方法を理解し、適切な文献の活用ができる 2. 自己の看護実践の意味づけができる			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1	文献検索のクリティーク	片寄	1. 文献検索の方法 2. 文献のクリティーク	講義
2	ケーススタディの意義・方法		1. ケーススタディとは 2. ケーススタディの進め方 3. 論文の構成とまとめ方 4. ケーススタディの事例・テーマの決定	講義
3	看護研究計画書の作成		1. 看護研究計画書とは 2. 看護研究計画書の作成	講義 個人ワーク
4	原稿の作成		1. ケーススタディ原稿の構成 2. 原稿の作成	講義 個人ワーク
5	プレゼンテーションの方法		1. 発表の種類 2. 口頭発表の準備 3. 効果的なプレゼンテーションとは 4. 要旨・発表原稿の作成	講義
6	ケーススタディ発表会準備		1. 発表用パワーポイントの作成 2. 要旨・発表原稿の作成	個人ワーク
7			1. 質疑応答 2. 講評	グループ ワーク
8	ケーススタディ発表会			発表会
履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは「看護研究」「ケーススタディの進め方」			
1)テキスト 2)参考書	1)系統看護学講座 別冊 看護研究 医学書院 2)看護学生のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社			
評価方法	1. ケーススタディ原稿 2. 発表会 成果物			
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	発表会に向けて計画的にケーススタディに取り組む	

専門分野 成人看護学		科目名：成人看護学演習		★専任教員(看護師)	1単位 30時間 (2年次前期)
学習目標		1. 成人期を対象とした看護過程展開ができる。 2. 成人期の看護に必要な看護技術を習得する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容		授業形態
1	1. 看護過程 展開	佐藤	1) 手術を受ける胃癌患者の看護(急性期・回復期・退院指導を含む) (1) 周術期看護とは ①手術療法と患者の身体的、心理的反応 ・手術による身体の影響 ・体位の影響 ・術式の影響 (2) 集中治療と看護 ① 術後看護：術後合併症の発生機序と種類 ② 術後看護：起こりやすい合併症の予防と看護 ③ 術後看護：リハビリテーションと生活復帰のための看護		講義
2			2) 胃癌の病態生理 3) 手術による身体の影響 4) 体位の影響(術式の影響、術後合併症の起こりやすい時期、予防、看護)		講義 個人 ワーク
3			5) 看護過程展開の実際 事例紹介 情報の整理、アセスメント、病態関連図作成		講義
4			5) 看護過程展開の実際 事例紹介 情報の整理、アセスメント、病態関連図作成		演習 グループ ワーク
5			5) 看護過程展開の実際 事例紹介 情報の整理、アセスメント、病態関連図作成		演習
6			6) グループワーク発表 (1) グループごとアセスメントを発表 (2) 看護問題の明確化、看護計画立案、発表 (3) 意見交換		演習
7			7) 演習(援助の実際・場面ごとの判断) 場面 手術直後の看護の実際		講義 グループ ワーク
8			8) 演習(援助の実際・場面ごとの判断) 場面 離床の実際		
9	2. 指導技術 (個別)		1) 意思決定支援 (1) パンフレットによる周術期支援 ①手術オリエンテーションのパンフレット作成 ②退院指導についてのパンフレット作成		講義 グループ ワーク
10			(2) パンフレットによる周術期支援 ①グループワーク発表		講義 グループ ワーク
11	3. 救命救急		1) 救命救急の看護 (1) 緊急度と重症度のアセスメント (2) 心肺停止状態への処置 (3) ショックへの処置 (4) 急性症状の応急処置		講義
12			(5) 外傷・熱傷・中毒の応急処置 (6) 環境要因による障害の応急処置 (7) 感染症への処置		講義
13			2) 気道確保(挿管)・人工呼吸 3) 気管内吸引		講義
14			4) 意識レベルの見方の実際 5) 心臓マッサージ・AED		講義 演習
15	終講試験			筆記試験・まとめ	
履修上の留意点		基礎疾患・手術適応疾患については、解剖、病態生理、検査、治療、看護を事前にテキスト等で復習しておくこと。 課題レポートについては、授業の中で提示する。提出期限を厳守すること。 グループワークはIT活用、シミュレーター使用			
1) テキスト 2) 参考書		1) 周術期看護 学習ワークブック メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 経過別成人看護学①「周術期看護」メヂカルフレンド社 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 2) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学2 医学書院			
評価方法		1. 課題レポート 2. 筆記試験			
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	学習内容を深めるための事前学習をし、課題レポートに取り組む。		

★実務経験のある教員

老年看護学	科目名:高齢者看護学概論	★専任教員(看護師)	1単位 15時間 (1年次後期)	
学習目標	1. 高齢者の身体的・社会的・精神的特徴とその生活について理解できる。 2. 社会構造の変化と保健医療福祉制度の動向を理解できる。 3. 老年期における健康課題と看護の役割について理解できる。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1	1. ライフサイクルからの老年期の理解	長島	1) 老年期の定義 (1) 超高齢社会の現況と将来像 (2) 高齢者の健康の捉え方・老年期の位置づけ 2) 加齢と老化 3) 老年期の発達課題 エリクソン、ペック、バトラー、ハヴィーガースト	講義
2	2. 生活史からの高齢者の理解		1) 生活史から見た高齢者 高齢者の生きてきた時代 2) 高齢者の多様性 人生と経験・価値観の多様性	
3	3. 加齢に伴う変化 4. 老年期の健康課題		1) 加齢に伴う変化の特徴 2) 身体的変化と健康課題 神経系、運動器、感覚器、循環器、造血器・免疫系、呼吸器、消化器、代謝系、泌尿器、内分泌、生殖器、性機能 3) セルフケア フレイル 4) 精神的変化と健康課題 認知機能、心理的機能、スピリチュアリティ	
4	5. 高齢者の生活の変化 6. 高齢者と家族 7. 高齢者とQOL 8. 老年看護における倫理的課題		1) 社会的変化と健康課題／役割の変化 (1) 生活の場、住宅環境 (2) 生活リズムと生活習慣 (3) 役割と生活活動、余暇活動 (4) 就労・雇用 (5) 収入・生計 2) 家族構成の変化 3) 家族形態の変化 4) 高齢者と家族の人間関係 5) 家族と介護	講義
5	9. 高齢者の保健・医療・福祉の動向		1) 超高齢社会における保健医療福祉の動向 (1) 人口学指標 (2) 健康指標 (3) 老人保健法 (4) 老人福祉法 (5) 老人医療制度 長寿医療制度 (6) 年金制度 (7) 介護保険 (8) 医療費の助成制度の活用 (9) 保健医療福祉施設	講義
6	10. 健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み 11. 生活(療養)の場に応じた看護(病院・施設・在宅等)		1) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴 (1) 高齢者の健康状態と疾患の特徴、死亡率と死因 (2) エンパワメント・エデュケーション 2) 多職種連携と看護活動の場の多様化 (1) 高齢者の生活と健康を支える多様な場 (2) 看護職の活動の拡大と専門化	講義
7	12. 老年看護の役割		1) 老年看護を支える看護理論	講義
8	終講試験		筆記試験	試験
履修上の留意点	1. すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 授業者が、学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 3. 講義にはパワーポイント・DVD等映像教材を用いる。			
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾病 医学書院 2) 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			
評価方法	筆記試験			
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	DVD等を活用し高齢者と理解する	

★実務経験のある教員

老年看護学	科目名:高齢者看護学演習	★専任教員(看護師)	1単位 30 時間 (2 年次前期)	
学習目標	1. 高齢者を対象とした看護過程の展開ができる 2. 高齢者およびその家族に必要な看護技術を習得できる			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1 2 3	1. 看護過程展開① 情報収集・アセスメント	村田	看護展開に必要な基盤となる考え方 1)生活機能という考え方 2)生活行動モデル 【事例紹介 回復期:大腿骨頸部骨折】 高齢者の生活機能と今後の生活を見据えた情報収集・アセスメント	講義 演習
4 5	1. 看護過程展開② 関連図		病態と生活機能関連図 1)疾患の病態生理・治療と加齢に伴う変化 2)疾患とその看護	
6 7	1. 看護過程展開③ 看護診断の明確化 目票設定		目標志向型思考の「看護の焦点」 1)高齢者に特徴的な健康問題・看護診断の関連 2)高齢者の長期目標・短期目標設定	
8 9 10 11	1. 看護過程展開④ 看護計画立案・実施・評価		1)高齢者が望む生活を踏まえた看護評価の必要性 2)高齢者の退院支援・退院支援スクリーニング	講義 演習
12 13 14	2. 看護過程展開の 実際	村田	指導技術(個別) 1)片麻痺患者の移動 2)良肢位 3)義歯の取り扱い	演習 演習
15	まとめ		老年看護の思考・実践の展開のまとめ	講義 まとめ
履修上の 留意点	1. 講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。授業者が学習内容にそってグループワークやレポート課題を提示する。 2. 講義にはパワーポイントとDVDを用いる。 3. 老年看護学の各科目を土台に学習していくため、必要時予習課題を提示する。また高齢者を対象にした演習では状況判断・実施・評価を行う。基礎看護技術及び高齢者の生活援助技術の復習を行うこと。			
1)テキスト名 2)参考書	1)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 1)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 1)看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社2)高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 2)老年看護学2 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社			
評価方法	課題レポート評価			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	高齢者を対象とした演習課題に取り組み、看護過程の展開ができる	

★実務経験のある教員

専門分野 精神看護学	科目名:精神看護学概論		★専任教員(看護師)	1単位 30時間 (1年次後期)
学習目標	1. 精神看護の変遷を知り、精神科看護の概念を理解できる。 2. ライフサイクルと精神の発達危機について理解する。 3. 精神看護学の対象及び看護の目的を理解する。 4. 精神看護におけるリスクマネジメントを理解する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	授業形態
1	1. 精神科看護から精神看護へ	名達	1)精神障害者と治療の歴史	講義
2			2)日本における精神医学・精神医療の流れ	講義
3	2. 精神看護学に影響を及ぼす諸モデル		1)医学モデル 2)精神分析モデル	講義
4			3)対人関係モデル 4)危機予防モデル 5)看護モデル	
5	3. 精神の健康を理解するための諸概念		1)精神の機能と構造	講義
6			2)ライフサイクルの各期の心理的特徴 3)各期の危機状況	講義
7	4. 精神の健康に及ぼす因子		1)生物学的因子 2)物理学的因子	講義 GW
8			3)心理社会的因子 4)社会構造因子	
9	5. 生活の場と精神保健		1)精神保健の概念 2)暮らしの場と精神保健 3)学校と精神保健 4)職場における精神保健 5)地域における精神保健	講義 GW
10	6. 看護の対象及び看護師の役割		1)対象者の幅と看護者の関わる場	講義
11			2)対象者と看護師関係の治療的関わり 3)看護師の役割(リスクマネジメント含む)	
12	7. 地域における精神保健福祉活動		1)相談活動 2)教育活動 3)訪問活動	講義
13	8. 精神保健福祉制度		1)精神保健福祉の変遷 2)精神保健福祉法と医療・行政 3)障害者総合支援法 4)心神喪失等医療観察法	講義
14	9. リエゾン精神看護		1)リエゾン精神看護とは 2)リエゾン精神看護活動ケアの実際 3)看護師のメンタルヘルスへの支援	講義
15	終講時試験		筆記試験、まとめ	試験
履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは、「精神看護の基礎」「精神看護の展開」 2. 配布資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示			
1)テキスト 2)参考書	1)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1)精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2)精神看護の展開 医学書院 2)国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			
評価方法	1. 筆記試験			
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、精神看護の理解を深める、ニュースや新聞等の精神疾患について興味関心を持つ	

★実務経験のある教員

統合分野 看護の統合と実践	科目名:臨床看護技術演習		★専任教員(看護師)	1単位 30時間 (3年次前期)
学習目標	1. 複合的な条件の事例を予測性・個別性をもってアセスメントし、実践できる能力を習得する。 2. 卒業時の技術到達度をふまえて、自己の看護技術の達成状況と課題を明確にする。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態
1	複合事例の症状のアセスメント	高梨前田	1. 臨床推論の展開 1) 起きている事実の状況把握と状況判断 2) どのような看護を実践するか行動の具体化	講義 G.W.
2				
3				
4 5	複合事例の症状のアセスメント	高梨前田	1. 優先順位の決定 1) 緊急性・優先順位を考えた判断と安全・安楽な対応 2) 看護業務中断時の患者対応	講義 G.W.
6	アセスメントに基づく看護の実施と複合した治療処置の必要な患者への援助の実践	高梨前田	1. 事例患者の看護計画立案 ・複合した治療・処置のある患者の看護計画 2. シミュレーション ・事例患者の看護計画に基づいた演習	講義 演習
7				
8				
9 10 11 12	複数患者受け持ち時の援助の優先順位の決定とタイムマネジメント	高梨前田	1. 事例による演習 ・優先順位とタイムマネジメント ・複数受け持ち	演習
13 14	看護チームの一員としてのメンバーシップ行動	高梨前田	1. メンバーシップとは 1) 実習の経験を踏まえたディスカッション 2. 実習・演習を振り返っての自己の課題	講義 G.W.
15	終講試験			試験
履修上の留意点	1. 課題(その都度提示)は授業に参加するために必要な知識になるので、各自自己学習して授業に臨むこと 2. テキストと配布資料は熟読・活用する 3. 授業内容に応じ適宜授業形態を指示する			
1)テキスト 2)参考書	1)看護の統合と実践 2 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社 2)看護の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会			
評価方法	1.レポート 2.グループワーク 技術確認			
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	課題・レポートを作成する。事例レポートをまとめる	

★実務経験のある教員